

年頭挨拶

令和4年1月  
会長 江川 和宏

新年明けましておめでとうございます。

皆さま、良い年未年始を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は COVID-19 の感染拡大が続き、国を超えた移動もままならないまま、東京オリンピックは無観客開催となりました。しかし、選手達はスポーツの力で私達に感動を与え、努力することの大切さ、苦難に打ち勝つ強い意思、ダイバーシティの重要性を改めて認識させてくれたと思います。

政治的には、米中の対立、ロシアと欧州西側諸国との対立が尖鋭化し、中東の不安定さも加わって国際関係は緊張が続き、我が国は首相が1年で交代するという不安定な年でもありました。

私達耐火物業界にとっても、未だ嘗てない激動の1年であったと思います。

各国の景気刺激策が過剰なマネーを産み出した結果、欧米では消費・輸入拡大に繋がり、米国での港湾荷役ネックが引き金となって、海上運賃は異常な高騰を見せ、ここにエネルギー価格の上昇が加わり、更には中国の電力価格政策・石炭輸入構造変化・脱炭素宣言に伴う電力供給制限も影響して耐火物原料価格が急上昇するという、我々を取り巻く環境には大変厳しいものがありました。

他方、私共の主要需要家である鉄鋼業は、自らの構造改革・中国の生産抑制等による需給改善も相俟って、生産量は上期では対前年同期比 30.5%の増と順調に回復、収益も大幅に改善しつつあります。この回復は耐火物メーカーにとって干天の慈雨となり、上期の耐火物生産は対前年比 18.5%増の 47 万トンとなりました。下期も、耐火物は安定した需要が見込まれています。この状況を活かしながら、「鉄の母」と言われ、非鉄金属分野でも無くてはならない耐火物の重要性を需要家各位にご認識頂き、サプライチェーンコストを応分に負担して頂くことで、カーボンニュートラルに対応する持続可能な安定生産・安定供給構造を揺るぎないものとする努力が今後耐火物メーカーに課せられた責務であると思います。

一方、安全成績に関しては、課題の残る一年でした。

昨年は休業 13 件、不休業 35 件と一昨年に比べ微増となりました。要因別にみると、相変わらず「挟まれ巻き込まれ事故」がもっとも多くなっています。このうち 1 件は死亡災害となり、痛恨の極みであります。安全なくして私達の事業は成り立ちません。本年は是非とも災害の無い一年を皆様と共に目指したいと存じます。

末尾となりますが、協会会員の皆様の新たな一年のご多幸を祈念し、私の新年のご挨拶とさせていただきます。

皆様、ご安全に！